

飛行機の足元を支える縁の下の力持ち。

ピーエヌ機電（長崎県時津町、橋本進社長、095・882・5181）は、航空機の降着装置に使われる部品を製造する。約20年間、航空機産業向けでは同部品に特化。生産量は21万個を超えているという。

製品は降着装置に使う「ブッシング」と呼ばれる大きささまざまな部品。全日本空輸が運航する「ボーイング777」などが採用。部品の結合部に使われる。素材は難削材

ピーエヌ機電

上昇気流に乗れ

航空機産業を支える企業と技術

39

取引先と連携 海外開拓

状や表面処理などの加工手順を委ねるなどの工夫で対応してきた。

2017年度から主要取引先との連携を強化している。その一環で4月から始めたのが

素材の調達方法の変更。そのため新たに素材倉庫を敷地の一角に設置した。従来の調達

は特殊合金メーカーの

大和合金（東京都板橋区）から機体整備を

実施するSPP長崎エンジニアリング（長崎県諫早市）を

経由してピーエヌ機電が受け取る

流れだった。

効率を高めるため三



加工した部品を安全局（EASA）の確認。現場では二次委託先認証を取得したためだ。

ピーエヌ機電は「主要取引先にも取り組む」

受託増加に備え、人材育成に力を入れる。機も取り込みたい」と

現場担当者は「かみくだいて作業を教え最適

な段取りを可能にした

の拡大が期待できるとい

る。メリットが生ま

れた。今後は従来の国内

倉庫に保管するように

の取り込みが可能にな

る。SPP長崎エンジ

の業務が低減。ピーエ

ニエンジニアリングが

欧州航空

【企業メモ】社名の「ピーエヌ」はフエニックス（不死鳥）のスペルから。プレス加工とマシニング加工を手がけ、航空機以外ではモーターや発電機に使われるコアの打ち抜き加工を主力とする。九州経済連合会のQAN（九航協エアロスペース・ネットワーク）に参加しており、九州のクラスターの一員として活動している。